

クナシリ・メナシの戦いについて(12)

はじめに

今回も、新井田孫三郎が記した「寛政蝦夷乱取調日記」から、同じく寛政元年(1789)7月27日の記録から見て行きます。

「つかまふ」出帆から「吉岡村」に総勢が揃うまでです。一行には、「御目見蝦夷」を伴っていました。この中にはツキノエの子イコリカヤニや、ションコの子カネマキらが居りました。

27日東南の風天気克

今日、沖になつたので図合船(100石)以下)3艘と、夷の大船17艘で朝6時ごろ「のつかまふ」を出帆しましたが、沖合で風筋が宜しくなく、徐々に「ゆるり嶋」まで暮れる頃着船しました。夜に入り、いよいよ風筋が悪くなりました。この後4日間は出船することが出来ませんでした。

総長人「イコリカ」を呼び出し、申し渡しをいたしましたのは、徒党のうちシャモを殺しました「イコリカ」と申す夷が「出奔(逃亡)」したことにつけ、見当たり次第、早速夷共を伴わせ、御城下へ差し登らせるように召捕り差し出した場合は、「重き御褒美」を仰ぐのみで、

申し渡しました。
5日に先発の新井田孫三郎・松前平角・蠣崎久吾は、「あつけし」を出船しましたが、海上が荒れていたので「あとよか」に船を付け、陸路を行き「べつしゃら」で日が暮れ、「くすり」には夜11時頃に着きました。翌6日「くすり」を出立し、「くらぬか」に毎2時過ぎに着き、7日は「しやくべ」に宿し、8日は「とかち領おほつなひ」に、9日は「じうらひ」に、10日「わかつ」、11日「ほろいつみ」、12日「しゃま」、13日「浦川」、14日「みつい」、15日は「しふぢやり」運上屋で毎飯ののち、「いかつさ」に午後2時(約1時間)着きました。16日は「やる」、17日「ゆうふ」、18日「ふくせつ」、19日「ほんべ」、20日「もんじん」でした。

翌2日に両人が登城し、総勢受け入れについては、「万端美々敷」致すよう仰せられ、「上箱」について大澤村へ差し送ると、飯、「福島村」へは午後5時(約1時間)着きました。

儀として樽・肴重の内が送られました。29日には「泉澤村」着き、30日朝6時過ぎ出立し、「知内村」で昼食、「福島村」へは午後5時(約1時間)着きました。

新井田孫三郎と松前平角は城下に着き登城しました。その用向ちは、持参いたした首級を何れに渡せばよいのかを伺う事、「御目見得蝦夷共」については万端柔らかに下さるように申し上げる事、総勢は何れの御門より受け入れられるのか伺う事、首箱がとても見栄えが悪いので「上箱」を下されるよう申し上げる事などについての伺いの書状を、登城して差し出しました。

一人は朝7時頃「大澤村」を立ち「吉岡村」に着きました。後2時(約1時間)に「跡勢残らず」した。「吉岡村」には、午後2時(約1時間)に「跡勢残らず」到着相揃いましたので、このことを記した書状を町奉行所に申達しました。また、「御目見得蝦夷共」が残らず揃ったので通詞に名前を調べさせ、「シモチ」・「イシカワ」・「シシマツケ」・「カネマキ」・「イコリカヤ」・「セカネ」・「シトウケ」ら38名と「女夷の分」として「あつけし祖母」・「セマシマツ」・「イカシレ」の名の「以上男女共三拾九人」と外に「おさつべ」の「ネチカネ」・「シトウケ」の「ケンノフ」・「サクラカ」の4名の「都合四十三人」の名が記されています。

8月4日日和宜しく西風

総勢が(一度に)「出立」致すと、道中が滞るので、「三連」に「出立」する」とに定め、明5日は新井田孫三郎・松前平角・蠣崎久吾、6日には秋山角左衛門・高橋喜兵衛・鈴木文治、7日には松井茂兵衛・松江源七・村岡雄載其の外総勢残りの弓を取る」として定めました。

9月1日天気宜し

9月3日天気宜しく

一人は朝7時頃「大澤村」を立ち「吉岡村」に着きました。後2時(約1時間)に「跡勢残らず」した。「吉岡村」には、午後2時(約1時間)に「跡勢残らず」到着相揃いましたので、このことを記した書状を町奉行所に申達しました。また、「御目見得蝦夷共」が残らず揃ったので通詞に名前を調べさせ、「シモチ」・「イシカワ」・「シシマツケ」・「カネマキ」・「イコリカヤ」・「セカネ」・「シトウケ」ら38名と「女夷の分」として「あつけし祖母」・「セマシマツ」・「イカシレ」の名の「以上男女共三拾九人」と外に「おさつべ」の「ネチカネ」・「シトウケ」の「ケンノフ」・「サクラカ」の4名の「都合四十三人」の名が記されています。